# 川村伯鳳(勝四郎)

川村伯鳳は本名が勝四郎で、明治 44 年荒川村に生まれた。旧国鉄職員で日本画をよく描いた。小学生の頃からねぶたを作った。師匠は成田某という金魚屋であった。戦前は小型ねぶたを作っていたが、やがて国鉄に勤務しながらねぶた作りを継続していった。伯鳳のねぶたの特徴は自由奔放で、その異様ともみえるグロテクスさにあるという。それが認められたのは昭和 42 年の『国引』であった。ここから青森ねぶたにグロテスクという要素が加わるようになったという。

彼は作るときに他人には手をかけさせなかったといい、従って弟子も少ないが、同じ荒川村の鹿内一生(第四代ねぶた名人)は伯鳳を師匠としている。鹿内からは多くの荒川出身の弟子が輩出し、現在のねぶた師の一大門閥(俗に「荒川」)を形成している。

青森ねぶた誌(平成 12 年 3 月 31 日発行)から